

まわり地蔵さま



Hayashi

本川俣には一年中、人の背にオンブされて百九軒の壇家の家々をまわり、幸せを運ぶお地蔵さまがいらっしやいます。そして八月二十三日の地蔵祭りの日だけ千手院にもどり御神体をやすめます。人々はお地蔵さまがおいでになると、ごちそうをつくり、おさい銭をあけて、色々な事をお願いします。そのようにして、おじいさんのおじいさんの、その又おじいさんのその又おじいさんと、ずーつと昔から親しまれてき

たのです。

遠い昔のある日のこと、一人の坊様が本川俣村にやって来た時、たびかさなる洪水で、生活は苦しく、土地も、村人の心もすっかりあれはてている様子を見て、なんとか力になってあげたいと思い、千手院の本尊様に真剣に祈り「家々をまわってあるくお地蔵さまをつくらう。」と心にきめました。

それから数年間、家々をまわり三百人以上の人々からの寄付によって、ひのきの寄木づくりのお地蔵さまがつくられました。坊様はお地蔵さまを厨子に納めそれを背おって、本川俣村にもどって来ました。毎日、家々をまわってあるき、村人の幸せを祈り続けてくれました。

ある年、大雨がふり、又土手がきれれました。どうしてもきれ所がふさがらないので人々は困ってしまいました。その事をきいて坊様は

「わしはもう年だし、この村のために命を捧げて、人柱になるろう。そのかわり、このお地蔵さまは壇家をまわり続けるようにして下され。じっとしては働きにならないお地蔵さまなのじゃから。」

と言ひ残して、合掌をし、念仏を唱えながらきれ所へ沈んでいきました。この場所は二度と切れなかつたといひます。

二百余年たった今でも、この坊様との約束はまもられています。最近、いたみがあまりひどくなつたので昭和六十二年にお地藏さまがまわる家の人々の力で大修復をし、三十年前の、美しくて、力づよいお姿になりました。そして、又、すそを風にひるがえす珍しいお地藏様は休むことなく家々をまわり、末長く本川俣の人々をまもって下さる事でしょう。

坊様は浅草宗円寺の松阿上人しょうあじょうじんさま。人柱になられた上人さまの供養塔が千手院の墓地のかたすみに土手を見守る様になっています。

